

**第488回 4月27日開催  
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	大村 英昭
木下 明美	倉光 弘己
黒田 勇	櫻井 美幸
森 輝彦	
深井 麗雄（書面参加）	

**テレビスポーツ番組**

**「みんなの甲子園」**

**放送日**        3月25日（木・第3戦）  
                  4月 3日（土・準決勝）  
                  4月 4日（日・決勝）  
〔3日分まとめて審議〕

**\* 櫻井委員**

試合とは別の人間ドラマを伝えたいという狙いはそれなりに成功していたと思うが、高校野球の魅力というのは、試合そのものから十分伝わってくるものである。番組としての味付けや色付けが、ややもすると演出過剰になり視聴者にとって逆にお節介になる恐れもあるのではないかと思った。

**\* 黒田委員**

私もやはり、スポーツはスポーツの中で語るべきだと思う。選手の家族などを描かなければならないということは、スポーツ資源としての高校野球の価値が低下しているのではないか。スポーツ放送の大きな流れから言えば、かつてのメディアイベントとしての高校野球の意味付けを、大きく変えてしまうというチャレンジも放送界に必要ではないか。

**\* 大村委員**

全体的に、物語過剰でその物語もやや通俗的な感じがした。また、進行役のまな、かなさんの「感動をありがとう」という言葉も何度も聞かされると嫌になってしまう。内容的にも、勝者ではなく敗者の美学というかダンディズムを追いかける手もあると思う。ただ「また夏がある」と言われてしまうのが正直辛いところである。

**\* 倉光委員**

こうした番組は、盆栽のように不要な部分を切り落として、どこをクローズアップして見てもらうか、意図的ではなく自然な形で作ればそれなりに面白くなると思う。隠し味としての部分にウエートを置き過ぎたり感動的な話にこだわり過ぎると、隠し味ばかりが際立つ料理になってしまうので、もっとアッサリした作り方もあったので

はないか。

**\* 荒巻委員**

手厳しい意見が出ているが、私には構成上の視野の広さと時間的な奥行きが感じられた。また、色々なエピソードが各試合とうまく絡み合いながら、良い形の同時進行ドキュメントになっていた。ただ進行役のまな、かなさんは、笑顔が過剰気味だったので、もう少し抑制したら持ち味が生きたと思う。

**\* 木下副委員長**

特集で取り上げる高校がローカルシフトというのは、地方の活性化の意味で良かったと思う。ただ選手の家族ドラマは、ステレオタイプ的でやや安易な感じがした。今後、今回のように人間に焦点を当てた構成で行くのか、試合の経過をダイジェスト風に紹介する形で行くのか、議論が必要だと思う。

**\* 森委員長**

番組として試行錯誤をしているのは分かるが、テーマをもっと絞った方がよいのではないか。たとえば、何故あれだけの情熱を持って、しかも自らの意志で汗を流すのかという所に焦点を当てれば、当然そこには人や環境や地域社会の問題などが出てくると思う。そういったものが、視聴者の深い共感につながるのではないか。

**\* 深井委員（書面）**

「感動と涙の甲子園」も、一昔前に比べると、心の揺れ動きといったものがかなり深いものになってきていると思う。そういった変化を、コーナータイトルの「宝モノ」というキーワードでうまく引き出せたことを高く評価したい。その意味でナビゲーターのまな、かなさんがやや表面的な「感動」に終始していたのが残念だ。